EVENT

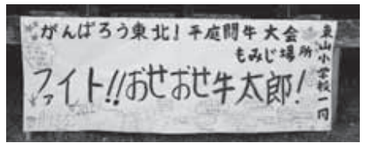
平庭闘牛大会もみじ場所開催

牛太郎の取り組みで沸く会場

10月14日、平庭闘牛大会もみじ場所が平庭高原闘牛場で開催され、市内をはじめ、県内外から約1300人が来場し、今年最後の闘牛を観戦しました。

関脇以上の取り組みでは牛がぶつかり合うたびに「ゴツ、ゴツッ！」いう音が会場内に響き渡り、目の前で繰り広げられる押しつ押されつの取り組みに会場からは拍手と歓声が湧き起こりました。

福岡県から訪れた渡邉龍久さんは「初めて見たけれど楽しませてもらいました。序盤は静かな戦いが多かったけれど、横綱戦になると迫力が全然違いますね。牛の良さがよくわかりました」と満足した様子でした。



上／貫禄の取り組みを見せた牛太郎（右）
下／東山小の児童からも応援の横断幕も

この日は特別番付として、今年の5月に新潟県小千谷市の東山小学校から山形町に戻ってきた牛太郎の取り組みも行われました。会場には同校の児童たち手作りの横断幕も掲げられ、牛太郎を後押しします。小千谷市の角突きでは1勝もしたことがない牛太郎ですが、観客からの「牛太郎がんばれー！」の声援を受け、関脇の平庭王を相手にどっしりとした取り組みを披露。会場からはたくさんの拍手が送られました。

会場からは大きな声援と拍手が

EVENT

第43回久慈地方産業まつり開催

充実の会場、１万人でにぎわう

10月20・21日の両日、第43回久慈地方産業まつりがアンバーホール周辺で開催されました。1万4千人以上が訪れ、会場はにぎわいました。

会場にはテントが立ち並び、山・海・里の恵みや、郷土料理など出店者自慢の商品が一堂に会しました。農林水産まつり会場では、山ぶどう物産展が開催され山ぶどうジャムを作るコーナーもあり、来場者は興味深そうに作り方について質問をしていました。また、商工まつり会場では青森・秋田のB級グルメの店舗など6店が出店。普段味わうことのない注目の料理を目当てに各店舗には長蛇の列ができました。

各テントの前には長蛇の列が

「食」以外の会場も充実しており、サンドブラスターを使いガラスのコップに模様をつける産業体験コーナーや、ふれあい消防フェアの放水体験やレスキュー体験などには、子どもたちが集まっていました。体験をした子どもたちは、憧れの仕事や匠の技に触れ、皆満足した様子でした。

どんなデザインのコップにしようかな？

カボチャクイズの正解発表

産業まつり「生活まつり」のカボチャ計量クイズの正解は…
１６.２キロでした。
応募総数306通のうち、正解者１人と正解に近かった13人に記念品をお贈りします。

SCHOOL

ＪＦＡ・キリンスマイルフィールド

元代表選手とサッカー対決！

9月24日、久喜小学校（高橋啓司校長・児童62人）でサッカー教室「ＪＦＡ・キリンスマイルフィールド」が開催されました。東日本大震災の復興支援活動「復興応援キリン絆プロジェクト」が子どもたちにサッカーを通じて笑顔になってもらいたいとの思いから企画。日本サッカー協会の協力により昨年から継続して活動しているもので、これまでに岩手・宮城・福島の3県で約2万7千人の小学生が参加しています。

元サッカー日本代表の中西永輔さんとボールを使ったゲームなどで楽しく交流した後は、中西さんチームとのサッカー対決。プロの巧みなボールさばきに圧倒されながらも児童たちはゴールを決めて大はしゃぎ。大城凛さん（2年生）は「すごい選手とサッカーができて楽しかったです」と目を輝かせていました。

あれ？いつの間に！？

中西さんと楽しいゲームで交流しました

SCHOOL

侍浜小学校がふるさと体験学習

ふるさとの文化を体験

10月1・2の両日、侍浜小学校（田中淳校長・児童119人）の6年生がふるさと体験学習を行いました。1日の郷土料理づくり体験では、浜っこかあちゃんクラブ（田中和子代表）の会員から指導を受け、あずきばっと作りに挑戦。水を加えた小麦粉を児童たちは交代しながら手でこね、足で踏み、こしの強い麺を作りました。あんと煮て出来上がるとみんな笑顔の昼食会。

児童の大向太清くんは「こねた塊をのし棒に巻いて伸ばすのが難しかったです。苦労して作ったあずきばっとはもちもちしていておいしいです」と満面の笑みでした。

体験学習では、このほか地元農家でのホウレンソウの収穫と海水からの塩づくりを体験し、夜は侍浜町内で民泊。ふるさと侍浜の文化を肌で感じた2日間でした。

指導を受けて丁寧に、丁寧に

おいしくいただきました！

東京楽竹団のメンバーと共演

竹楽器のワークショップ開催

自作の竹楽器に満足

10月13日、自ら竹で楽器を製作し演奏活動を行っている東京楽竹団（橘政愛代表）の製作ワークショップがおらほーるで行われ、市民ら約20人が参加しました。

ワークショップではフィリピンの民族楽器バリンビンを製作。バリンビンは、手に軽く打ち付けると楽器に入れられた割れによって「ビーン、ビーン」とユニークな音を出す楽器です。参加者は団員から丁寧な指導を受け2時間ほどで完成させました。妹と二人で参加した四役遥海さん（小久慈小・6年）は「竹を削るのは難しいところもありましたが、上手にできました。竹に開けた穴によって音が変わるのがすごいと思いました」と自作の楽器に満足の様子でした。

参加者は14日に行われたコンサートで同団の演奏にも参加し、芸術の秋を楽しみました。

竹を割らないように慎重に慎重に

ほら、不思議な音色だよ